

小児科・新生児科

概 要

部 長：鶴 田 悟（小児科）
山 川 勝（新生児科）
ス タ ッ フ：15 名

小 児 病 棟：年間 1,300 例前後の入院

N I C U：年間 300 例前後の入院

母体救急対応型総合周産期母子医療センター指定

小児救急受診者数：8,000 人前後

特 徴

1. 北米型 ER 型救急システムを持つ急性期病院ならではの幅広い小児救急患者（外傷なども含む）を経験出来る
2. 救急・感染症・アレルギーといった小児患者の多くを占める領域のみならず新生児・循環器・免疫膠原病・神経といった分野の専門家が在籍しており、専門性の高い指導が受けられる
3. 公的病院という性格上、小児科全体として各種ガイドラインに準じた標準治療を意識しており、基本に忠実な診療スタイルを身につける事が出来る
4. 外来および地域での健診などを通して小児総合診療に触れられる
5. 専攻医ひとりひとりの研修内容および要望を、定期的に小児科スタッフ全員が集まって検討することで研修の質を高めるように心がけている
6. 新専門医制度では研修基幹施設として認定されており、当院独自のプログラムで専門医研修が可能です

一 般 目 標

1. 臨床医としての基本的知識（理学所見、栄養管理、輸液管理、抗菌薬適正使用など）を理論的に実践できる
2. 急性疾患の初期対応を独力でこなせる： Pediatric Advanced Life Support（PALS）・新生児蘇生法（NCPR）修得実践
3. 小児科専門分野においても専門家の指導の下で診断出来るようになる
4. 発達する小児を知識・技能・態度の面から総合的に診療でき、ありふれた疾患に関しても生活指導も含めて普通に対応できるようになる
5. 地域と一体となった小児保健医療に寄与できる
6. 学会や論文発表等の学術分野で医療に貢献する

※ 詳細は、神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医育成プログラムをご参照ください。

行 動 目 標

1. 入院診療

入院診療は主治医制ではなく、チーム医療で対応している。朝と夕方の2回の回診を通してチーム内で治療方針の意思統一をするだけでなく、小児科全体で情報を共有できるようにしている。

1年目の3-4ヶ月はNICUで新生児医療に従事する。1年目後半以降は日常的な疾患に関しては単独で診療し、適宜上級医に相談する。3年目は自身の将来を視野に入れながら、より複雑な疾患にも対応出来るように心がける。

2. 外来診療（予防接種・健診含む）・小児科救急当番・小児科当直に関しては、各人の状況から判断して1年目早期から従事

3. 地域での乳幼児健診出務：年数回程度

4. 初期研修医指導

5. 抄読会・勉強会・輪読会

6. 症例検討会：毎週症例提示

7. 学会発表

1年目は年3回の兵庫県小児科地方会、2年目は3月の近畿小児科学会、3年目は4月の日本小児科学会に発表することを意識して研修に励む。各専門全国学会への参加発表は機会を作り適宜行う。

8. 論文作成：専攻医期間に必ず行う。

9. 院内外研修

2年目以降、自身の将来を視野に入れて見聞を深める目的で当院小児科以外の研修を行うことを推奨する。希望により兵庫県立こども病院など専門病院と連携して研修が可能である。

10. PALS・NCPR 習得には多方面で強力にバックアップ

11. 夏期休暇は院内の規定に従い取得

※ 詳細は、神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医育成プログラムをご参照ください。

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
7:30		Mock Code			
8:00	Working Round				
10:00					
12:30		Resident day	コアレクチャー		
16:00	Evening Round				部長回診
17:00				入退院カンファレンス 抄読会	

Mock Code：シミュレーターを活用し、シナリオに従った初期対応訓練

Resident Day：専攻医、初期研修医が主体的にテーマを決めてディスカッションを行う

コアレクチャー：小児科スタッフによる各領域のレクチャー

その他不定期で救急セミナー、画像カンファレンス、他病院とのビデオカンファレンス、学会発表の予演会などあり。

経験可能な手技および治療

一般的な新生児小児診療に要するもの（静脈ライン確保・腰椎穿刺・超音波検査など）、集中治療時（心肺蘇生術・動脈ライン確保・気管内挿管・中心静脈ライン確保など）、人工呼吸管理（侵襲的・非侵襲的）、生物学的製剤使用など。

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医育成プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL：http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident のリンクより閲覧可能

スタッフからのメッセージ

当院は急性期病院として救急および集中治療部門が充実しており、それに熱心な成人科の医師達やコメディカルスタッフに支えられた恵まれた環境での研修が可能です。当科で研修して良かった、と言っていただけるよう小児科スタッフ全員で努力しておりますが、皆様の熱意で当科の研修プログラムをドンドン改善して行って下さい。当科の新たな歴史のページを皆様が切り開いてスクスクと成長していかれることを我々一同喜んでサポートさせていただきます。

見学等問い合わせ先

鶴 田 悟：stsuruta@kcho.jp 山 川 勝：yamakawa@kcho.jp